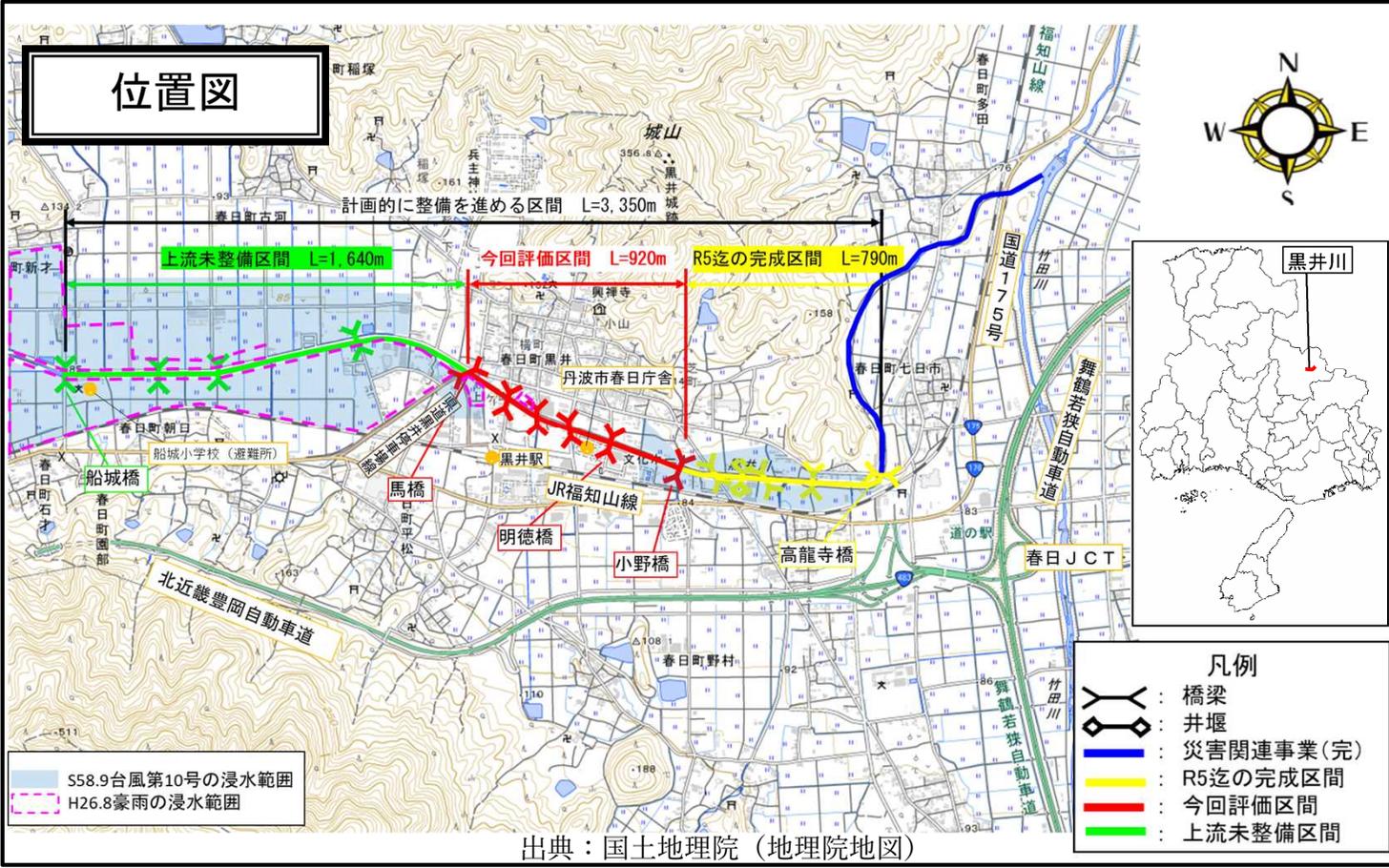


令和3年度 投資事業評価調書（新規）

部課室名	県土整備部土木局 河川整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	河川整備課長 勝野 真 (企画整備班主幹 森野 正之)	内線	4408 (4437)	
事業種目	事業名	事業区間	総事業費	内用地補償費	着手予定年度	完了予定年度
河川事業	一級河川由良川水系 竹田川圏域黒井川 広域河川改修事業	丹波市春日町 (小野橋～馬橋)	36億円	5億円	令和4 (2022) 年度	令和10 (2028) 年度
事業目的				事業内容		
<p>黒井川では、昭和58年9月台風第10号洪水、平成2年9月台風第19号洪水、平成16年10月台風第23号洪水、平成26年8月豪雨等により度々浸水被害が発生している。</p> <p>このため、黒井川が属する由良川水系竹田川圏域河川整備計画（平成28年5月）に基づき、昭和58年9月台風第10号（戦後最大規模の広域的な被害をもたらした洪水）と同規模の洪水に対し、家屋への浸水を軽減することを目標とする。</p>				<p>整備延長：920m 計画流量：75 m³/s (基準点：竹田川合流地点) 主要工種：河床掘削、 築堤・護岸、 橋梁架替6橋</p>		
評価視点	評価結果の説明					
(1) 必要性	<p>① 黒井川では、昭和58年、平成2、16、26年など過去から度重なる浸水被害に見舞われており、治水安全度の早期向上が求められている。</p> <p>【主な浸水被害】</p> <p>昭和58（1983）年9月台風第10号：[被害家屋32戸、浸水面積176ha] 平成2（1990）年9月台風第19号：[被害家屋8戸、浸水面積110ha] 平成16（2004）年10月台風第23号：[被害家屋29戸、浸水面積74ha] 平成26（2014）年8月豪雨：[被害家屋81棟、浸水面積152ha]</p> <p>② 小野橋の下流区間が令和5年度に完了する目途が立ったことから、小野橋の上流区間について河川改修を進め、治水安全度の向上を図る必要がある。</p> <p>③ 当事業区間上流にある避難所の船城小学校等の浸水被害軽減に必要である。</p>					
(2) 有効性・効率性 (執行環境状況)	<p>① 費用便益比：B/C=2.1 (河川整備計画の内、事業中である竹田川、黒井川の費用便益比)</p> <p>② 河川改修を実施することにより、昭和58年9月台風第10号程度の洪水に対し、家屋への浸水を軽減する。</p> <p>③ 地元の強い要望及び協力体制があり、事業執行環境は整っている。</p>					
(3) 環境適合性	<p>① オグラコウホネ（レッドデータブックBランク）等の生物調査を実施し専門家の意見を聴きながら、必要な対策について検討する。</p> <p>② 工事で伐採する沿川の桜並木の復元については、地元関係者と意見交換を行ったうえで対応方針を決定する。</p>					
(4) 優先性	<p>① 当事業区間の進捗状況は、上流未整備区間の着手時期に影響を与えるため、着実な事業進捗が求められる。</p>					
【事後評価】 対象・対象外						

河川事業 一級河川由良川水系竹田川圏域 黒井川 [丹波市春日町]



目的

河川整備計画(H28.5)に基づく治水安全度の向上(昭和58年台風第10号(戦後最大規模の広域的な被害をもたらした洪水)と同規模の洪水に対し、家屋への浸水を軽減する)

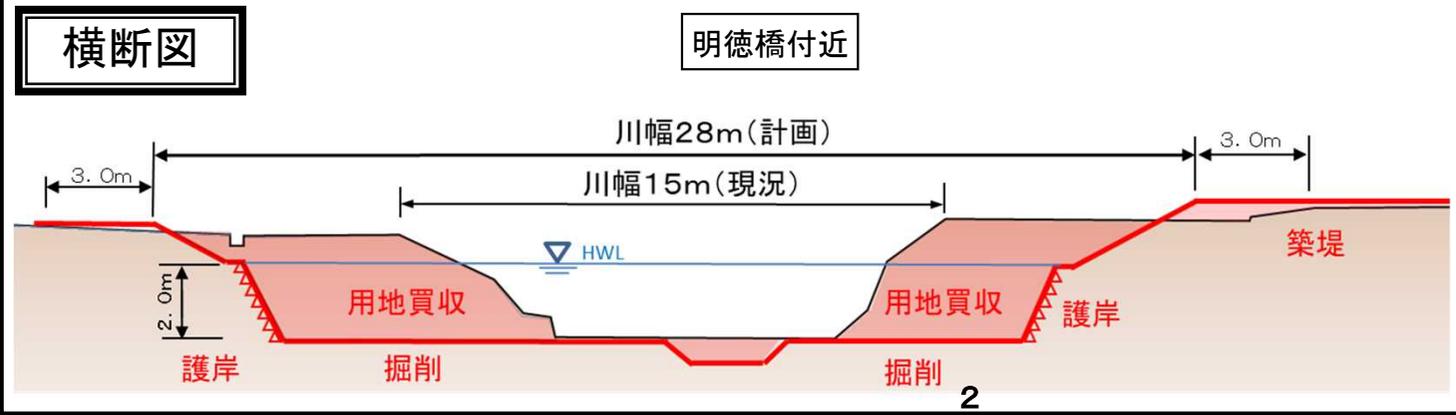
事業概要

事業区間：丹波市春日町(小野橋～馬橋)
 総事業費：36億円
 内用地補償費：5億円
 事業期間：令和4(2022)年～令和10(2028)年
 事業概要：河床掘削、築堤・護岸、橋梁架替6橋
 延長：920m(計画流量：75m³/s)
 費用便益比B/C：2.1
 (河川整備計画の内、事業中である竹田川、黒井川の費用便益比)

工程表

※事業費及び工程については、下流の実績等を踏まえて設定

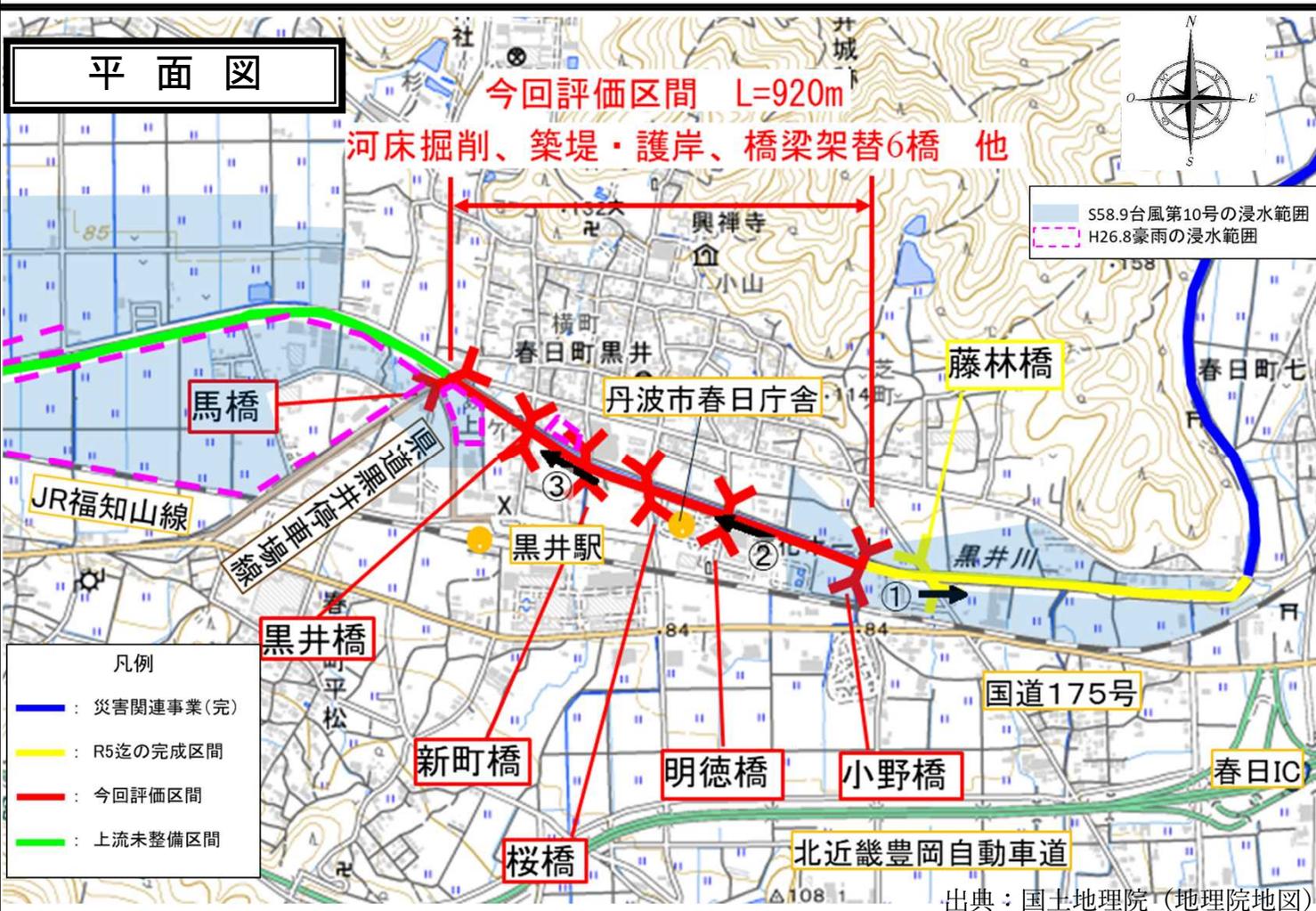
工種	年度						
	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
調査設計	■	■					
用地補償		■	■	■	■		
河床掘削			■	■	■	■	■
築堤・護岸工			■	■	■	■	■
橋梁架替		■	■	■	■	■	■



事業の必要性・優先性

- ① 黒井川では、昭和58年、平成2、16、26年など過去から度重なる浸水被害に見舞われており、治水安全度の早期向上が求められている。
- ② 小野橋の下流区間が令和5年度に完了する目途が立ったことから、小野橋の上流区間について河川改修を進め、治水安全度の向上を図る必要がある。
- ③ 当事業区間上流にある避難所の船城小学校等の浸水被害軽減に必要である。
- ④ 当事業区間の進捗状況は、上流未整備区間の着手時期に影響を与えるため、着実な事業進捗が求められる。

平面図



現況写真

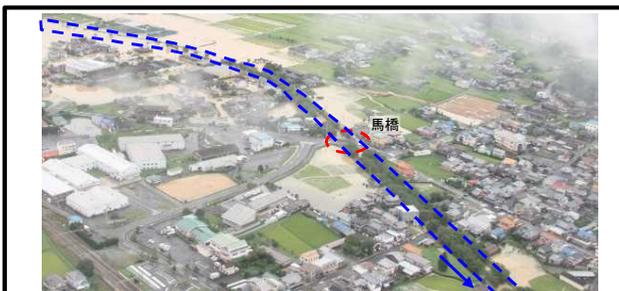
①整備済区間(藤林橋下流)



②未整備区間(明德橋上流)



③平成26年8月豪雨による被害(馬橋付近)



環境適合性

- ① オグラコウホネ(レッドデータブックBランク)等の生物調査を実施し専門家の意見を聴きながら、必要な対策について検討する。
- ② 工事で伐採する沿川の桜並木の復元については、地元関係者と意見交換を行ったうえで対応方針を決定する。

事業の有効性・効率性

(1)費用対効果

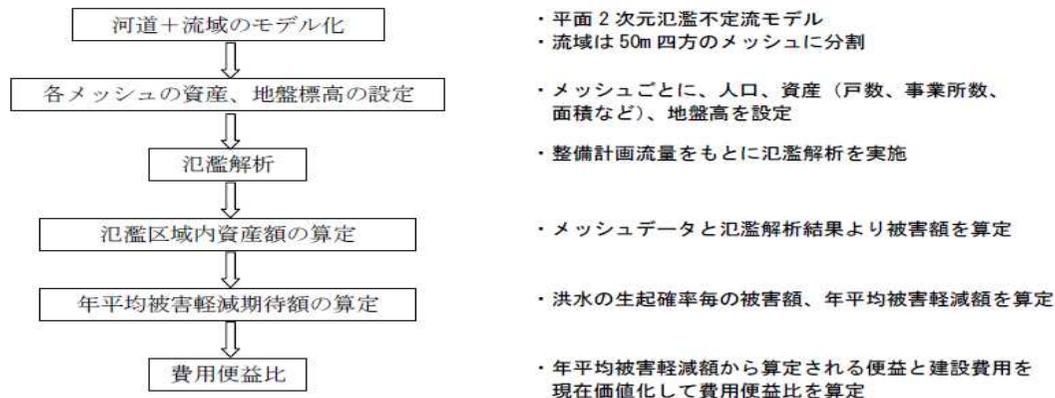
①便益(B)の項目

評価の視点	効果項目(費用対効果の便益内容)
治水安全度の向上	浸水被害の軽減 <ul style="list-style-type: none"> ・一般資産被害(家屋、家庭用品、事業所償却資産、農業家償却資産等) ・農産物被害

1) 便益 = 「治水事業を実施することによる被害軽減期待額」を現在価値化

被害額 = 一般資産被害 + 農作物被害
 + 公共土木施設等被害
 + 営業停止被害 + 応急対策費用

2) 費用 = 「建設費 + 維持管理費」を現在価値化



②費用便益比(B/C)算出根拠

B(便益)		C(費用)			B/C
便益額	代表的な効果	総費用	事業費	維持管理費	
15,713 (百万円)	<ul style="list-style-type: none"> ・浸水区域内人口938人の軽減 ・浸水面積206haの軽減 	7,245 (百万円)	6,736 (百万円)	509 (百万円)	2.1

※河川整備計画の内、事業中である竹田川、黒井川の費用便益比

(2) 費用対効果に含まれない効果

評価の視点	効果項目	該当する事業内容等	
社会経済活動等の安定	人的被害の軽減	○	<ul style="list-style-type: none"> ・浸水区域内人口、災害時要援護者の軽減 ・災害時孤立者の軽減
	道路、鉄道等の交通途絶による波及被害の軽減	○	<ul style="list-style-type: none"> ・県道丹波竹田停車場線（3,948台/日）、岩崎市島線（2,057台/日）等の交通途絶を解消 ・国道175号（7,754台/日）の交通途絶を解消 ・県道黒井停車場線（4,416台/日）の交通途絶を解消
	ライフラインの停止による波及被害の軽減	○	<ul style="list-style-type: none"> ・電力の使用不能者の軽減 ・固定電話・通信の使用不能者の軽減
	水害廃棄物の発生の軽減	○	<ul style="list-style-type: none"> ・水害廃棄物、処理費用の軽減

(3) 地域からの要望状況等

要望状況等	①早期の事業着手及び完了について、地元(黒井自治会)から要望されている。
-------	--------------------------------------

参考：事業の変遷

昭和47(1972)年：河川災害関連事業着手
 昭和51(1976)年：河川災害関連事業着手
 平成4(1992)年：小規模河川改良事業着手
 平成11(1999)年：由良川水系河川整備基本方針策定
 平成14(2002)年：由良川水系竹田川圏域河川整備計画策定
 平成24(2012)年：由良川水系竹田川圏域河川整備計画策定(第1回変更)
 平成28(2016)年：由良川水系竹田川圏域河川整備計画策定(第2回変更)